

# 予防接種の重要性指摘

## 旅行医学会夏季セミナー

日本旅行医学会の夏季

セミナーがこのほど東京都内で開かれ、写真、海外旅行の出発前に受ける肝炎や破傷風、腸チフス、コレラ、狂犬病、日本脳炎といった予防接種の重要性が出席した医師から指摘され

た。現在、日本で出国前にアフリカなど一部の国が義務化されるのは南米やアフリカなど一部の国が、旅行の安全・安心を高める自衛策として自

な旅行を実行するには、出発前の情報収集と医療機関での診断、慢性疾患には医師に英文での紹介状を書いてもらう防衛策が欠かせない。予防注射は間隔を置いて複数回受けなければならない場合もあるので、早めに相談することが必要だ」と指摘した。

狂犬病や破傷風が専門の国立国際医療研究センター1渡航者健康管理室の金川修造医長は、狂犬病による死者が全世界で年間5万人を超え、決して根絶した病気ではないことを注意。「狂犬病は未解明な部分が多く、発症前の診断が難しいほか確立された治療方法もない。唯一の防衛方法は予防接種であることを自覚し、発症例のある地域に旅行する際は必ず注射を受けてほしい」と呼び掛けた。

外的な予防接種の必要性が指摘される。セミナーでは、外務省診療所の青山南圭所長が、昨年1年間に海外旅行や外国滞在中、在外公館に病気がけがで救護を求めた日本人

今回のセミナーでは、海外からの招待講演としてヨーロッパ山岳救急医療委員会のフェデル・エルセンソン会長が、欧州では登山やトレッキングを通じた健康づくりの取り組みが広く実践されることを報告。登山・キャンプ用品メーカーからは、東日本大震災の被災地でランプやテント、寝袋、コンロなどのアウトドア用品が災害時のライ

